

生物・生態サイトカード

通しNo.		B-1		更新日	2025/3/19
サイト名		特異な湖「 <small>しんじこ</small> 宍道湖」			
基本情報	区分	<input checked="" type="checkbox"/> 動物 <input type="checkbox"/> 植物			
	生息地	松江市、出雲市(宍道湖)			
	分類	国指定宍道湖鳥獣保護区宍道湖特別保護地区			
	管理団体／保護団体／モニタリング	島根県等			
	留意点	ラムサール条約登録湿地 シンジコハゼ:しまねレッドデータブック(絶滅危惧Ⅱ類)等			
サイトの解説	生物・生態	<p>宍道湖と中海のわが国を代表する2つの大きな湖は、古来より私たちの生活や文化に密接な関わりをもってきた。</p> <p>わが国の湖で5番目に大きい中海と7番目に大きい宍道湖とはよく似ているように思われるが、塩分濃度をはじめとする水域の生態系は大きく異なっている。中海のような海水の1/2程度の塩分濃度の汽水域はどこにでもみられるが、連結汽水湖であり海水の1/10程度の塩分濃度の弱汽水湖である宍道湖は、特異な生態系を有した湖となっている。</p> <p>斐伊川が流れ込む宍道湖は、大橋川・中海・境水道を通じて日本海とつながっており、日本海から入り込む海水はさほど多くなく、低塩分の広大な汽水湖となっている。中海のような汽水湖は各地の潟湖にふつうにみられるが、宍道湖のような低塩分の広大な弱汽水域は極めて稀で、世界を見渡してみても珍しい存在の湖といえる。</p> <p>また、広さの割には水深が浅く、お皿のような形状をしている。このような浅い湖では、太陽エネルギーを糧として植物プランクトンが豊富に繁茂し、それを餌とするさまざまな魚が川と海から集まってくる。宍道湖に生息する生物は、このような極めて稀な弱汽水域の水環境や地形的な特性の中で、他の湖には見られないような特異な生態系をつくりだしているのである。</p> <p>宍道湖の生物の特徴として、定着性生物種の少なさや移動性生物の多さ、特定種の猛烈な繁殖、近縁種の中海との棲み分け、宍道湖固有種の存在などがあり、その代表としてヤマトシジミやシンジコハゼ、シンジコウミナナフシなどがあげられる。</p>			
	地形・地質、歴史・文化等	<p>宍道湖と中海は連結汽水湖である。その中で、広大な低塩分域を占める宍道湖の特徴は、高塩分域の中海との間に和久羅山と松江層の分布域する山地があるため、川幅の狭くなった大橋川を通した両湖の汽水循環が阻害されていることにある。近年の海面水位の上昇によって、満潮の時期には中海からの高塩分水の流入しやすい環境になりつつある。</p>			
写真・図等					
		連結汽水湖の宍道湖と中海			
参考文献		佐藤仁志(2015) 松江市史 通史編1自然環境・原始・古代(松江市史編集委員会): 126-135. 松江市.			